

陽だまり

7月8日

生徒指導通信No.9

クマの目撃情報に伴う登下校および生活上の注意について

令和8年6月30日(火)午後11時頃、三田市内に子グマ1頭の目撃情報がありました。現在、三田警察署と連携したパトロールや警戒、情報収集が行われていますが、生徒の皆さんの安全を第一に考え、登下校や家庭での生活において以下の点に十分注意してください。

1. 登下校や外出時の注意点

山林や藪にむやみに近寄らないようにしてください。もし、近くを通る際は、鈴やラジオなど音の出るものを身につけ、自分の存在を周囲に知らせながら行動しましょう。登下校や外出の際は、できるだけ一人にならず、複数人で行動するようにしてください。

時間帯に注意し、クマが出没しやすい「夕方から早朝」の時間帯は特に周囲の状況に注意してください。また、夜間の不要な外出はなるべく控えましょう。

2. もしもクマに出会ってしまったら

ゆっくり静かにその場を離れる。大声を出す、走って逃げるなどの行為はクマを刺激するため大変危険です。落ち着いて、ゆっくり静かにその場を離れてください。

3. ご家庭へのお願い

誘引物の管理

クマを呼び寄せる原因となるため、生ごみなどを屋外に放置しないよう、適切な管理をお願いいたします。万が一クマを目撃した場合は、安全な場所に避難したあと、速やかに学校および市役所(または警察)へ連絡してください。

別添資料については、まなびポケットでも配信する予定です。
ご家庭でご確認いただきますようお願いいたします。

保護者のみなさまへ

クマ 出没時の対策を 家族で確認しましょう

近年、各地でクマの出没が増えています。登下校中も含め、子供たちの安全を守るためにはご家庭での声かけや地域での見守りが不可欠です。日頃から、次のポイントについて、お子様と一緒にご確認ください。

1 クマの生態について

①日本のクマ 日本に生息するのは「ヒグマ」と「ツキノグマ」の2種類。

【ヒグマ】(北海道に生息)

体長180-200cm
体重150-300kg
(最大400kg)

【ツキノグマ】(本州・四国に生息)

体長120-145cm
体重70-120kg

クマの足あとの特徴

・蹄の幅
ヒグマ 12~18cm
ツキノグマ 7~13cm
・蹄底と後足で
足跡の形が異なる
・爪が5本

②クマってどんな動物?

・学習能力が高い
特に食べ物に対する学習能力が高く、執着する。
・においや音に敏感
人や木よりも鼻や耳がよくにおいに敏感で、わずかな音も聞きとることができる。
・足が速い
時速40km~60km程度で走ることができる。

③クマはどこにいる?

クマが生息するのは森が中心。
近年は、
・草が生い茂った場所
・川沿い
・果実などがある
農地や人里
などにも出沒。

2 クマの出没情報の確認

自治体が発表しているクマの出没情報をこまめに確認しましょう。
※掲載省QRコードや各自治体の出沒情報リンク

環境省
国産木材が
クマに
関する情報

3 クマに出会わないために

①ひとりで行動しない
友だちと一緒に
行動しましょう。

②“声”や“音”で
人がいることを伝える
声や音、手を叩くなどで、
自分がいることをクマに
知らせましょう。(外では
友だちと大きな声で話す、
クマ鈴を持つなど。)

③クマがいきなり
そこには近づかない
クマの足あとやフン、
爪あとを見つけたら、
その場から離れましょう。

④もしも、クマに出会ってしまったら...

①クマを見ながら、
あわてず、ゆっくり、
その場をはなれる。
クマを刺激しないように
大声を出さないようにしましょう。
(背中を見せて走ると、追いつ
けられることがあります。)

②近くのお家へ逃げ、
助けを求める。
安全な場所へ逃げ込み、
大人に助けを求めましょう。
(背中を見せて走ると、追いつ
けられることがあります。)

③隠れようになった場合
助けてもらう。
木や岩の背後に隠れ、
周囲で後援部を置いたり伏
せになるなどして致命的な
ダメージを最小限にとどま
しょう。

5 学校・保護者・地域の皆さまへのお願い

✓日頃から、自治体が出すクマの出没情報を確認しましょう。

✓通学路や校地内を点検し、クマが隠れそうな場所がないかを確認しておきましょう。

✓クマが隠れそうな場所のヤブを刈払い、見通しをよくしましょう。

✓関係者間でクマが出た際の対応(登下校時の対応)や連絡体制を確認しておきましょう。

✓児童生徒への安全教育・指導とクマ遭遇時の
対処訓練をしましょう。

動画「クマに会ったときのために」の活用
(自治体・学校・保護者・関係者)
「クマに会ったときのために」の活用
(自治体・学校・保護者・関係者)

3 クマに出会わないために

子供たちと確認したいポイント

①ひとりで行動しない
友だちと一緒に
行動しましょう。

②“声”や“音”で
人がいることを伝える
声や音、手を叩くなどで、
自分がいることをクマに
知らせましょう。(外では
友だちと大きな声で話す、
クマ鈴を持つなど。)

③クマがいきなり
そこには近づかない
クマの足あとやフン、
爪あとを見つけたら、
その場から離れましょう。

④もしも、クマに出会ってしまったら...

①クマを見ながら、
あわてず、ゆっくり、
その場をはなれる。
クマを刺激しないように
大声を出さないようにしましょう。
(背中を見せて走ると、追いつ
けられることがあります。)

②近くのお家へ逃げ、
助けを求める。
安全な場所へ逃げ込み、
大人に助けを求めましょう。
(背中を見せて走ると、追いつ
けられることがあります。)

③隠れようになった場合
助けてもらう。
木や岩の背後に隠れ、
周囲で後援部を置いたり伏
せになるなどして致命的な
ダメージを最小限にとどま
しょう。

5 学校・保護者・地域の皆さまへのお願い

✓日頃から、自治体が出すクマの出没情報を確認しましょう。

✓通学路や校地内を点検し、クマが隠れそうな場所がないかを確認しておきましょう。

✓クマが隠れそうな場所のヤブを刈払い、見通しをよくしましょう。

✓関係者間でクマが出た際の対応(登下校時の対応)や連絡体制を確認しておきましょう。

✓児童生徒への安全教育・指導とクマ遭遇時の
対処訓練をしましょう。

動画「クマに会ったときのために」の活用
(自治体・学校・保護者・関係者)
「クマに会ったときのために」の活用
(自治体・学校・保護者・関係者)

【お問い合わせ先】
文部科学省総合教育政策局内児童共同防犯共済社会事業・安全課安全教育推進室 03-5253-4111
環境省自然環境局環境生物課自然保護管理室 03-5521-8285